

# 郷音

No.82

〒590-0959

日本キリスト教団 堺川尻教会

堺市堺区大町西三丁一・十三

☎ 072-233-1353

「律法学者に気をつけなさい。

彼らは、長い衣をまとつて歩き回ることや、広場で挨拶されること、会堂では上席、宴会では上座に座ることを望み、また、やもめの家を食い物にし、見せかけの長い祈りをする。このよう

な者たちは、人一倍厳しい裁きを受けることになる。」

(マルコ一二章三八～四〇節)

人は誰も、神から尊厳を与えられています。何も持たない裸の自分が、神に愛され、祝福され、尊い存在とされているのです。

しかし、私たちはこのことを見失ってしまいます。神を見失い、人々からの評価ばかりを気にし、それによって自分の価値が全て決まるように思つてしまっています。律法学者たちもそうでした。冒頭の聖句で主イエスは、律法学者たちが人々から注目され重んじられることを強く求めるこ

日本キリスト教団 堺川尻教会

堺市堺区大町西三丁一・十三

☎ 072-233-1353

にしておられます。彼らは、人か

ら常に自分が注目され重んじられていないと、安心できなくなつていたと考えられるのです。

ここで主イエスが批判しておられる律法学者たちの行為は、どちらもともとは神と人のためになされたよいことでした。「長い衣をま

られる」とやもめがお礼をしたことや、律法学者がやもめのために一生懸命祈つたことを指すと考えられるのです。

しかし律法学者たちは、いつの

## 人の尊さ

塚本一正牧師



マルコによる福音書一二章三八～四〇節

しろにされます。そうならないために、律法学者は自ら進んでそこに座つて神の権威を守つたのです。

「やもめの家を食い物にし、見せかけの長い祈りをする」とあります

が隣人愛の捷に従つてやもめを助け、それにやもめがお礼をしたこ

とや、律法学者がやもめのために一生懸命祈つたことを指すと考えられるのです。

しかし律法学者たちは、いつの

間でこう歌います。「いくしみ深き友なるイエスは、変わらぬ愛も

て導きたもう、世の友われらを捨て去るときも、祈りに応えていた

わりたまわん。」たとえ世の友全

が私を重んじてくれなくなり、私

を捨て去つても、私のために十字

架で死んでくださった神の子イエスは、私を決してお見捨てになら

ない、それが主が私たちに与えて

くださった救いです。この主の十

字架の愛に支えられて、私たちは

どんな時にも尊厳ある自分として

しっかりと立つのです。そして、報

いを望まず人に与え、人に主を証

しし、人を生かすのです。主イエスがそのような尊い生き方を私たちに取り戻してくださいました。

主イエスは言われます。神を見失つたこの者たちは、「人一倍厳しい裁きを受けることになる」と。

しかしそう言われながら主は、そ

の裁きの前に立ちはだかるように

して、ご自分が十字架にかかる

くださいます、それは、私たちが

このお方によつて、自分の存在の

尊さを取り戻すためなのです。

讃美歌「いくしみ深き」は三

節でこう歌います。「いくしみ深

き友なるイエスは、変わらぬ愛も

て導きたもう、世の友われらを捨

て去るときも、祈りに応えていた

わりたまわん。」たとえ世の友全

が私を重んじてくれなくなり、私

を捨て去つても、私のために十字

架で死んでくださった神の子イエスは、私を決してお見捨てになら

ない、それが主が私たちに与えて

くださった救いです。この主の十

字架の愛に支えられて、私たちは

どんな時にも尊厳ある自分として

しっかりと立つのです。そして、報

いを望まず人に与え、人に主を証

しし、人を生かすのです。主イエスがそのような尊い生き方を私たちに取り戻してくださいました。